

AJWCEF からのご挨拶

皆様におかれましては平素より AJWCEF の活動にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

日本におかれましては豪雨、台風により多くの方が犠牲になられたと伺いました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

さて、皆様にはすでにご承知かと思いますが、AJWCEF では2012年度よりインターネットを活用して日本とオーストラリアを同時中継で結び、高等学校や小学校のクラスに外国語での野生動物保護環境教育を提供しています。例えば、AJWCEF の協力施設であるモギルコアラ病院と日本の学校を結んで、病院院長が車に轢かれて怪我をしたコアラを見せながら、症状や事故の経緯、どのようにしたらその様な事故を防げるか、などを簡単な英語で説明いたします。それに対し、日本の学生は院長に英語で直接質問が出来ます。また、オーストラリアでは多くの学校で外国語として日本語を教えており、日本の環境施設とオーストラリアの学校を結んで日本語で同様の教育も行っております。

この中継教育がきっかけでオーストラリアのクリーブランド地区高等学校と可児工業高等学校が交流を始め、本年10月1日に姉妹校提携を結びました。今後は両校の生徒が環境問題などを通じ交換留学などさらに交流を深めていかれます。AJWCEF の目的は直接環境保護活動を支援する事もありますが、今回のように社会の皆様に広く環境について興味を持っていただく社会教育も重要な部分と考えております。AJWCEF は、今後も独自の 방법으로環境保護へ貢献していく所存です。どうか皆様の末永いご支援をよろしくお願い申し上げます。

オーストラリア日本野生動物保護教育財団
理事長 水野 哲男



クリーブランド地区高等学校



可児工業高等学校



コアラの孤児を養育するケアラー

オーストラリア連邦政府と豪日交流基金は AJWCEF の新しい教育企画、オーストラリア日本間の環境及び野生動物保護に関する中継教育に対して後援しています。

-イプスウィッチ コアラ保護協会-

IPSWICH KOALA PROTECTION SOCIETY

『ドリス・ダムのお話』

BY イプスウィッチ・コアラ保護協会 マーシー グッディンハム



「私は彼氏のニックと、彼の兄弟のアレックスと一緒に（Wivenhoe lakeの）ビリーズ湾でカヌーに乗って釣りをしに行くところでした。私たちがカヌーを漕いでいると、水面に突き出た古い枯れ木に寄せているボートがあるのに気づきました。なんと、その木にコアラがいたのです。

最初ちょっと見たところ、私はそのコアラは死んでいるのだと思いました。でも、そのコアラは動いたのです。そこで私は助けを呼ばなければならぬと考えました。それは、おそらく午後2時か3時でした。ボートに乗っている人達は、その木にビニル袋をつけて去って行きました。とても遠いところだったので、救助隊が来たとき

きに橋からコアラの居場所が分かるようにしたのでしょ。

私とニックは、野生動物レスキューの電話番号を入手するため電話番号案内に電話を掛けました。でも、電波の状態が悪くて殆ど掛かりません。あちこちに電話してみました。アレックスは釣りに行っていました。私とニックはカヌーに座ってコアラのことを考えたり、コアラに話し掛けたりしました。私はこの時、このコアラをボリスと呼んでいました。少しずつ暗くなってきていましたが、レスキュー隊の人達はまだ私たちが何処にいるのかを調べたり、救助に行ける人を手配したり、どうやってダムの真ん中に居るコアラを救助するのか考えている最中でした。

ボリスの傍らに座って一時間以上経ったころ、私たちは上着とタオルを取りに車に戻りました。それからまたコアラの所に戻って、私たちはコアラをカヌーの方に引き寄せようと試みました。でもコアラに攻撃されるかも知れないと怖くなったので、私たちはアレックスの櫂と魚をすくう網を借りようと彼を待つことにしました。

アレックスが戻って来て、私たちは、櫂をボリスの頭上に、すくい網をお尻の下に持ちました。でも彼はとても強く、捕まるまいと必死に木にしがみついていた。そこで、私たちは彼が他の枝に跳んでいってしまわないように、木の枝を取り除く作業を始めました。そうこうしていると、ボリスは水の中に落っこち、そしてすぐさま木に這い上がりました。その直後に私たちはボリスを網にかけました。アレックスは櫂を、ニックは網を持ち、私は枝を掴んでいる彼の爪を外そうと頑張りました。その後すぐ、彼は網の中に包まれました。そして私は網の上から上着を着せてあげました。

ボリスを捕獲してすぐ、野生動物レスキュー（イプスウィッチ コアラ保護協会のヘレンさん）から電話が掛かってきました。コアラを温かく保ってやるように指示を受けたので、携帯用の保温ボックスを持

っていることを伝えました。ニックがボリスを抱えていたので、保温ボックスを取りに行くとき、漆黒の闇の中を橋まで私がカヌーを漕がなくてはなりませんでした。

車のところに帰り、網の中のボリスをそのまま保温ボックスに入れました。そして次の指示を貰うため、野生動物レスキューの人にまた電話を掛けました。近くのファーストフード店で落ち合うことになりました。そこに着いたのは7時頃でした。そしてその時、私はボリスがメスだと気づいたのです！ボリスは男の子の名前です！名前を変えてあげなくては！こうして彼女の名前はドリス・ダムになりました。

イプスウィッチ コアラ保護協会 ヘレンさんのこぼれ話：

ドリスの回復後、そのダム（Wivenhoe Dam）にドリスを放しに行ったとき、マーシーも私と一緒に来ました。マーシーはドリスのいた木を指差しましたが、私は信じられませんでした。それは木というよりはたったの二本の大きな棒で、岸からとても遠いところにあったのです。ドリスがどうやってそこに行き着いたかは推測することしか出来ません。後にドリスが3日間もそこにいたと聞いたので、もしかすると、レスキューの2、3日前に（Wivenhoe Dam の上流にある）サマセットダム（Somerset Dam）の水門が開かれたときに、そこで身動きが取れなくなったのかも知れないと思います。その日、本当はマーシーは釣りに行きたい気分ではなかったそうです。私たちは彼女の気が変わって釣りに行ってくれたことに感謝しています。

これはマーシーさんにとって、初めてコアラをレスキューした日であり、イプスウィッチ コアラ保護協会との出会いの瞬間でもありました。現在、彼女はイプスウィッチ コアラ保護協会のメンバーとして、ボランティアで孤児となった様々な野生動物を養育する野生動物ケアラーとして活動を行っています。

●マーシーさんに養育された野生動物の赤ちゃんたち●



ブラッシュテール ポッサム



バンディクート



レッドネック ワラビー

AJWCEF では今後も献身的で愛情に溢れた野生動物ケアラーたちの活動の支援を続けていきます！

—プラスチックと海洋野生生物—

文 アラン=マッキノン モギルコアラ病院 獣医師

2012 年には、世界中で 2 億 8000 万トンのプラスチックが製造されました。2050 年までに 330 億トンのプラスチックが生産されると予想されています。プラスチックのごみは非常に大きな環境問題です。私たちが廃棄するプラスチックの半分が埋め立てられますが、残りは風に吹かれて最終的には海の中に入ってしまうのです。

プラスチックが野生動物に脅威を与えていることから、科学者たちはプラスチックは有害廃棄物として扱われるべきだと主張しています。プラスチックは、汚染された海水にある毒素を濃縮するだけでなく、海洋生物に絡まったり窒息させたりします。

オーシャン クルセーダー オーガニゼーション（海洋十字軍協会）は以下のように主張しています。

「全世界で、買い物客は年間約 5000 億枚の使い捨てビニル袋を使用しています。これは、世界で毎分 100 万枚、または一人当たり年間 150 枚のビニル袋を使用していることを表します。そして、その数は増加しています。」

彼らの統計は 1 平方マイル（訳注：2.59 平方キロメートル）毎に 4 万 6000 点のプラスチックが海洋内に存在する可能性があり、世界の水産資源のうち少なくとも 3 分の 2 がプラスチックの摂取に苦しんでいることを示しています。

絶滅危惧種インターナショナル（ESI）の会長である Pierre Fidenci 氏は以下のように述べています。

「海は、殆どが人間の目には見えないプラスチックの破片で出来たスープのようなものです。生命を死に至らせ、危険なほどに私たちの健康に影響を及ぼしています。」

数百万トンのプラスチックの破片が、何百もの動物や魚によって飲み込まれており、それによって消化機構を詰まらせたり、体内に化学物質が入ってしまうなどの被害が起きています。180 種以上の生物がプラスチック摂取で報告されています。





プラスチック製品がカメ、クジラ、アザラシ、ジュゴンや海鳥に絡みつくことも大きな問題です。大多数の生物への絡みつきは、廃棄された漁網（ゴーストネット）によって起きています。

昨年、オーストラリア放送協会（ABC）の「カタリスト（Catalyst）」という番組は「プラスチックの海」を放送しました。以下はその番組からの引用です。

動物学者 Jennifer Lavers 博士は過去5季に渡って、プラスチックによって引き起こされた水鳥の死亡について研究してきました。微細なプラスチック（マイクロプラスチック）による深刻な影響が分子レベルで起こっていることを発見しました。

Lavers 博士は次のように述べています。

「プラスチックは目に見えない有毒な作用を持っています。検出するのはより大変ですが、恐ろしさは他と同じです。

プラスチック自体は本質的に製造やプロセス中に使用される幅広い化学物質を含んでいます。プラスチックが海洋環境に放り込まれると、それは海の中を実に長い間 10 年もしくは 40 年もの間浮遊し続けます。そうしたプラスチックは基本的に小さな磁石かスポンジのような役割をし、海水で希釈されている海洋内の全汚染物質を取り込み、海面で濃縮します。

プラスチックの表面には、周囲の海水に比べ、最大千倍もの濃縮された汚染物質がついています。そしてカメだろうと海鳥だろうと、動物がその汚染物質を体内に取り入れてしまうと、それは血流に浸出して組織に取り込まれてしまいます。

現在、膨大な研究がなされており、ほぼ毎月発表されていますが、それらの研究は食物連鎖の絶対的な基盤である海洋生物種がこれらのプラスチックと汚染物質を摂取している事を示しています。

海洋由来のものに関しては、もはやオーガニックであるなどと証明することはできない事態になっています。」

この問題について私たちは何ができるのでしょうか？

簡単な答えは「海にプラスチックを捨てるのをやめる」です。

個人で出来ること：

1. 包装の使用を控えてゴミを減らすこと
2. 使い捨てプラスチック製品を購入しないこと
3. 容器を再利用すること
4. 可能であればリサイクルすること（多くのプラスチックは現在リサイクルすることはできません。）

予防は治療に勝る、転ばぬ先の杖ということです。



（写真：Toshimi Hirano）



2013 年 8 月野生動物保護トレーニングコース（海洋生物初級）が開催されました。

実習中には浜に打上げられたごみの種類、密度、生産場所の調査を行いました。

特に実習場となっているクイーンズランド大学のモートンベイ海洋研究センターでは、海洋のごみの海がめに対する影響の調査をしています。海がめはこのごみを誤嚥する事により、大変残酷な死に方をする可能性があるからです。トレーニング中には講師の指導のもと海洋のごみとその影響について詳しく学びます。

今後開催される野生動物保護トレーニングコース（海洋生物）の詳細は、AJWCEF ホームページ (<http://www.ajwcef.org>) にてご案内させていただきます。



海岸にみられたゴミ



講師とのディスカッション



海岸調査の様子



(写真：AJWCEF 2013 年 野生動物保護トレーニングコース 海洋生物初級より)

活動報告

2013 年 5 月から 2013 年 11 月まで



2013 年度オーストラリア野生動物保護セミナー

1. 岐阜県可児市 市民ホールアース 10 月 27 日
2. 岐阜大学 10 月 28 日
3. 日本獣医生命科学大学 10 月 29 日
4. 酪農学園大学 10 月 30 日
5. 岩手大学 10 月 31 日
6. 岡山理科大学 11 月 1 日
7. 日本獣医生命科学大学大学祭 11 月 2、3 日 終日

講師 : アラン マッキノン (クィーンズランド州立コアラ病院院長)

水野 哲男 (AJWCEF 理事長、日本獣医生命科学大学客員教授)

セミナー: オーストラリア野生動物の現状と保護 (コアラ、ジュゴンなど)

海外野生動物保護への参加ーオーストラリア

AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコースについて

インターネット中継教育

1. オーストラリア ブリスベン市、レッドランド市、イプスウィッチ市、ゴールドコースト市などにある野生動物及び環境保護施設やクリーブランド地区高校、プレンバイル小学校と、岐阜県可児市にある可児工業高校、南帷子小学校を中継で結び、オーストラリアの自然、生活、環境保護活動などを英語で紹介する 2013 年度中継教育活動を実施。

野生動物保護トレーニングコース

1. 2013 年 8 月 トレーニングコース (海洋生物初級)
2. 2013 年 8 月-9 月 トレーニングコース (初級)
3. 2013 年 11 月 スタディツアー&トレーニング (プロフェッショナル) ーコアラの臨床と管理ー





事業

1. ユーカリ植林事業

(モギルコアラ病院、プレンバイル小学校、ケンモア・サウス小学校、AJWCEF での共同事業継続中)

2. オーストラリア日本研究交流事業

(クイーンズランド大学、日本獣医生命科学大学、モギルコアラ病院、デービッドフレイ野生動物公園等)

寄付

1. 2013 年 9 月 3 日 フレンズ オブ フレイズ : \$ 50
2. 2012 年 9 月 16 日 イプスイッチ コアラ保護協会 : \$ 200
3. 2013 年 9 月 16 日 モギル コアラホスピタル アソシエーション : \$ 100
4. 2013 年 9 月 16 日 モギルコアラ病院 : \$ 1650
5. 2013 年 9 月 18 日 イプスイッチ コアラ保護協会 : \$ 50
6. 2013 年 9 月 20 日 クイーンズランド大学 \$ 600

イベント情報

トレーニングコース

1. 野生動物保護トレーニングコース(初級)

2014 年 3 月 9 日～3 月 23 日 (15 日間)

募集期間 : 2013 年 11 月 20 日～12 月 31 日

開催地 : オーストラリア クイーンズランド州

※詳細は AJWCEF ホームページにてご確認ください。



AJWCEF スタッフ紹介

新井風音



こんにちは、現在大学院で野生動物の生息地の保護についての研究を行っています、新井風音です。就職活動をすでに終えていた大学4年生の夏に、こちらのスタディツアーに参加した結果、「もっと野生動物保護について深く関わりたい」と思い、大学院に進むことにしました。また、来年から、交換留学生としてシドニーに1年間留学する予定です。オーストラリアには大自然があり、動物もたくさんいて、自然と動物好きの私にとってはワクワクする場所です。私は小さいころから野生動物保護に関する仕事をしたいと思っていましたが、実際に就職活動してみると、そのような職は日本ではほとんどなく、悔しく思っているところでした。しかし、AJWCEF 広報ボランティアとして協力することによって、野生動物保護に関わることができるので、現在嬉しく思っています。将来的には、英語力も知識も付けて、海外のレンジャーや研究職なども視野に入れていきたいと思っています。皆さんも、視野を海外に向けて、一緒に野生動物保護活動を考えていきましょう。

小林真紀

はじめまして。AJWCEF ボランティア会員、ブログメンバーとなりました小林真紀です。

岐阜大学、応用生物科学部3年生です。研究室では全国の動物園と提携し、動物園動物の繁殖に協力する活動を行っています。

国内外の野生動物保護に大変興味があり、2012年にトレーニングコースに参加し、その活動内容に感銘を受けたうちの1人です。私もAJWCEFの一員として何か協力できる事があればと思い、ボランティア会員に登録させていただきました。

よろしくお願い致します。

会員(個人・法人)募集 及び 支援寄附のお願い

皆さまのご支援が小さな命を助けます

詳細は、AJWCEFのサイトwww.ajwcef.orgで『参加・協力』のページにお進みください。

ニューズレター発行元

オーストラリア野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野哲男

編集担当 平野聡美

ホームページ www.ajwcef.org

住所 PO Box 1362 KENMORE,
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA

電話 +61 7 3374-3909 FAX +61 7 3374-3531